



井田 秀喜(いだ・ひでき)議員

一問一答

ふるさとこまつを

未来へつなぐために

◆やさしい市役所について

多くの市民も利用する1、2階トイレに、人感センサーライトの設置はできないか。

A 庁舎内のトイレは人感センサーによる音声ガイド、多目的トイレでのオストメイトへの対応、女子トイレのベビークエアの設置等順次改善を図っている。人感センサー照明についても1、2階を優先して設置していきたい。

Q 受動喫煙防止対策として庁舎敷地内禁煙になり職員の喫煙場所がなくなった。市たばこ税としても7億円余の税収があるなかで、分煙室の設置は検討できなかったのか。

A 来庁者用の分煙室は3年前に整備しており、利用できる。基本的には公共施設内全面禁煙の方向であり、今後も市職員の喫煙場所は設けず、本人、家族のために禁煙外来治療等を勧めていきたい。

Q 庁舎内には未使用空間が存在する。この空間を行政に関係が深い各種団体等に活用する事はできないか。

A 市庁舎の中には市民の個人情報等さまざまな重要情報が存在しており、各種団体への貸し付けは、庁舎内オープンスペースの共有、土日を含まれた時間外の出入りなどを考えるとセキュリティ管理上適当でないと考ええる。なお、各種団体の活動状況を踏まえ、庁舎以外の望ましい施設の貸し付けを検討していきたい。

◆市職員の人材育成について

Q 現在、民間企業との人的交流はあるのか。

また近年、公共工事が減少する中で技術職員が実際に民間の現場で働き、特に若手職員の経験を積む機会を増やす事はできないか。

A 本市では、専門職制度の導入、PDCAサイクルの仕事の進め方等民間的経営手法で業務に取り組んでいる。

民間企業への派遣研修は検討したが、今回実現に至らなかった。視野を広げ、柔軟な発想力や対応力を身につける手段として有意義であると考えており、今後も関係先と相談を続けたい。



吉村 範明(よしむら・のりあき)議員

一問一答

地域の魅力アップと

認知症トータルサポート「ほっとけん」について

◆価値ある地域の魅力を高めるために

Q 里山自然学校こまつ滝ヶ原についてこれまでの活動内容、利用動向、交流人口は。

A 住民主体で8つの塾を中心に活動。利用者は23倍に増加、町外利用が9割で、積極的交流が行われている。

Q 今後の取り組みや方向性は。

A 見学ツアーや体験、人材育成を進めていく。

Q 石文化資源の保全と活用について石切場の調査状況は。

A 文献や聞き取りにより、現状、特徴、建造物への活用事例を確認した。

Q 石切場の活用の考え方は。

A 観光やイベント利用、日本酒やワインの貯蔵庫も考えられる。

Q 今後のこまつ滝ヶ原と石文化を融合させた取り組みについて、例えば、能登演劇堂は著名な劇団誘致でまちづくりへと繋がっている。石切場と自然学校との融合は不可欠であるが構想は。

A 石切場、石橋を活用した石の文化を発信するため、地域の皆さんとともに進めたい。

◆こまつ認知症トータルサポート「ほっとけん」について

Q 切れ目のないサポートについて既存の施策の概要と新たに取る組む施策は。

A 認知症サポーター養成や研修会を実施、新たに予防対策や早期対応、相談体制の充実を重点的に取り組む。

Q 新規事業で独自の施策は。

A 脳の健康手帳やはつらつ脳トレ体操はオリジナルである。

Q 新規事業の受け持つ団体は。

A 健脚ボランティアや高齢者総合相談センター等の協力を得る。

Q みんなで支える体制づくりとは。

A 市民が認知症を理解し、専門職と連携、協働して見守りを推進する。

Q 各種団体間について情報等はどの様に共有を図り連携していくのか。

A 事例検討会や課題協議を行う地域ケア会議で情報共有していく。

Q 今後の展開は。

A はつらつ協議会の中で、校下などの対応を進めて欲しい。



吉本 慎太郎(よしもと・しんたろう)議員

一問一答

小松のシンボル 「空港」と「木場潟」について

◆小松空港「復活元年」を目指して

Q 新幹線金沢開業から一年、小松—羽田便搭乗率アップへの対策は。

A 加賀の観光素材を組み込んだ旅行商品の造成、販売を行った旅行社に対し、支援を行っていく。

Q 福井エリアへの小松空港利用促進のための積極的な働きかけを。

A 企業等への営業強化や連絡バスの就航、アンテナショップ等の環境づくりが進められている。

Q 羽田乗継割引の周知・PRを。

A ホームページやパンフレットの作成、キャンペーンの実施等と関係機関と連携していく。

Q 空港への交通アクセス、駐車場利用料の減額等、利便性の向上を。

A これまで実施してきた駐車場の値下げや進入路の整備、航空プラザの魅力拡大を周知していく。

Q 国際便の強化、外国人観光客に「小松」を選んでもらうための方策とは。

A 外国語表記や無線LAN、クレジットカード等、観光地や買い物を受け入れ環境の充実を図る。

◆木場潟水質改善の取り組み

Q 現在、木場潟の水質状況は。

A 平成2年に12だったCOD値が平成25年には7.8に改善された。

Q 下流の前川水門を活用した水質改善実証実験の効果は。

A 水位を下げることで木場潟の滞留日数が改善され、COD値の低下速度が平年より2.5倍速くなった。

Q 木場潟浮島プロジェクトとは。

A 西園地付近に人口浮島を設置し、水質汚濁の原因である窒素やリンを除去しようとするものである。

Q 第66回全国植樹祭から一年、湖面に映える白山が更に光輝くような木場潟を目指してほしい。

A 環境土国こまつの玄関口として、市民共創で充実させていきたい。



※CODとは…
湖沼等の有機汚濁を測る代表的な指標。この数値が大きいほど有機物による汚濁が大きい。

特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策

■在日米軍再編に係る訓練移転について

3月7日(月)～18日(金)に行われた訓練移転については、協定等が遵守されていることが確認できております。

■飛行教導群の新田原基地から小松基地への移動について

隊員とその家族が安心して小松市に転居し、生活していけるよう、バックアップを求めました。

■台湾チャーター便について

運行ダイヤについては、今後も要望活動を実施していくよう求めました。

議会改革調査

■香典の取扱いについて

香典については、香典をしないの制限の線引きが非常に困難なため、「原則行わない」ことを申し合わせたうえで、近親者等関係が密な人に対するものについては、議員個人の判断で行うとすることが適当であるとし、3月18日に、議長に対し、答申しました。

新幹線及び駅周辺整備対策

■北陸新幹線について

北陸新幹線金沢・敦賀間の建設については、関係機関や地域住民と意見交換を行うこと、また、駅周辺の駐車場整備など事業全般についての報告を求めました。

■小松駅南ブロック複合施設について

公立4年制大学の設置全般については、駅周辺整備対策でも特に取り上げて調査すべきであり、また、平成30年4月開学を控える中で集中的に調査すべきと決しました。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 川崎 順次
副委員長 吉本 慎太郎
全議員所属

平成28年度小松市一般会計予算

■公立4年制大学施設整備費

小松短期大学及びこまつ看護学校の財産が、今後(仮称)公立小松大学設立に向け、どのような流れになっ
ていくのか、また、国の交付金、授業料などの財源、設立までの見込み、設立後のランニングコストについて、議会に対し、丁寧に説明するよう求めました。

■自主防災組織育成費

「国際都市こまつ」を掲げる本市として、安全・安心のまちづくりのため、外国人防災士の育成にも努力するよう求めました。

■3D-CAD活用推進費

事業者へ3D-CADが浸透しているかどうか活用の実態を把握したうえで、ソフトの互換性などの面も含め、より効率的・効果的な事業の推進に努めるよう求めました。

■授業支援費中のデジタル教科書の購入費

今後、益々進展する教育現場におけるICT化に対応していくためにも、Wi-Fi等の環境整備については、先進校における取り組み等を検証しながら計画的に実施していくよう求めました。

めしました。

■制服リニューアル検討費

小松市立高校の制服については、デザイン面はもとより、経済性や機能性についても十分に考慮しながら時間をかけてしっかりと検討していくよう求めました。

■こども体育大学開催費

本市の子どものたちの運動能力・体力の底上げにもつなげていくため、教育委員会との連携をしっかりと行っていくよう求めました。

■国際都市welcome費

小松の魅力ある文化や充実した施設の情報発信及び観光客のニーズ把握に努め、県への働き掛けも含め関係機関と連携し、本市全体で取り組むよう求めました。

■わがまち環境整備助成事業費

町内で行う道路整備等の工事に対しては、工事の質の担保や施工後の安全について十分な配慮を求めました。

■フローラルこまつ〜花・水・樹〜推進費

今後も取り組みを市民共創で継続していくためにも、市民への呼びかけに加え、ハード整備についても検討するよう求めました。

平成28年度小松市公共下水道事業会計予算中、接続促進費

今後も、接続率を上げる働きかけや、効率的・効果的な健全経営に努めるよう求めました。

総括質疑での指摘事項について

■ごみダイエット50%費

指定袋導入の制度設計が、いまだ不十分であり、市民、議会への丁寧な説明及び意見交換を行い、制度確立後に予算計上すべきであるとの強い指摘がありました。

■ひとものづくり科学館費

科学教育振興奨励基金について、事業計画及び調書を示すよう、また、企業会計のように収支をしっかりと示すよう強く求める指摘がありました。

■(仮称)小松駅南ブロック複合施設活用費

学びのゾーン部分に係る建物賃貸借契約において、(株)こまつ賑わいセンターに解除事由が生じた場合に、市が賃借を継承するための平成54年度までの債務負担行為について、限度額が明示できないのであれば予算計上すべきではないとの指摘がありました。

賃貸借契約の金額をしっかりと示し、議会に十分な説明と議論を重ねることを強く求め、平成28年度小松市一般会計予算に対する附帯決議を全会一致をもって提出しました。

小松市議会初

平成28年度小松市一般会計予算に対する附帯決議を全会一致で可決

小松駅南ブロック複合施設(学びゾーン施設部分)の建物賃貸借契約について

- 市民負担の低減を図ること。
- 契約額の根拠及び相場を示し、契約額を事前に報告すること。
- 賃貸借契約の金額がわかり次第、金額を示した補正予算を計上すること。

以上を求める附帯決議を委員会提出議案として本会議に提出し、全会一致で可決しました。



附帯決議とは

修正権の行使が難しい場合に、執行上の要望、勧告、留意事項を委員会の意思としてまとめたもの

債務負担行為とは

地方自治体が将来にわたる負担を、一定期間保証する義務

予算決算常任委員会総括質疑

自民創生会

吉村範明委員

◆こども体育大学開催費

事業概要は。

基本運動により、遊びの中で運動能力向上を目指す。新たに小学1、2年も対象にする。

こまつアスリート育成事業との関連性は。

幼児期の運動能力向上により一貫したサポートを確立する。

これまでの事業は応募多数で抽選と聞いた。漏れた子もあり、全体の底上げも必要だが、今後の展開は。

こども体育大学の人数、対象年齢の拡大を進めていきたい。

高野哲郎委員

◆ICT教育環境推進費及び授業支援費

予算の目的、整備計画は。

学校の情報化推進を目的に、30年度までに全て設置完了する。

検定を受けた教科書とデジタル教科書の関係は。

デジタル教科書は意欲的な学習、学びを深める手だてだと考えている。

デジタル化する時代において教育の将来ビジョンを聞きたい。

情報機器を正しく使っためにも内面重視の教育を推進したい。

◆ごみダイエット50%費

指定ゴミ袋の製作費は。また、収支の考え方は。

10月からの半年間で約2,600万円の製作費がかかり、事業系ゴミ手数料等で歳入が増える。

指定袋以外で出されたゴミの扱いは。

指定ステッカーを貼り、収集しない予定で、啓発・巡回を強化していく。

記名制には一部抵抗感があるようだが。

記入内容は各町内会の判断でマーケティング制度を活用したい。

宮橋勝実委員

◆ひとものづくり科学館費

ビジネスプランでは有料入館者数を年間10万人

としたが、昨年度85168人、今年度2月末時点で47722人となり、目論見を大きく下回る結果となった。要因は。

目論見が大きく外れたとは認識していない。目的どおり、科学と人づくりは達成しており、まちのブランド力は非常に向上した。

昨今はテーマとしての学びのほうに際立っているように感じるが、収支改善のためには交流の拠点としての位置づけで取り組むことが重要である。

科学教育の拠点としての位置付けと、全国展開をしながら交流についても取り組んでいく。

◆(仮称)小松駅南ブロック複

施設設活用費

賃料などの契約内容が示されず、負担すべき限度額が明示されない中で、25年にも渡る債務負担行為を議決する必要性は。駅前の相場と大きく乖離しているのは、市の財政負担が大きくなり問題だ。先に金額を明示すべきである。

建物を着工する前提で、ビル所有者となるSPCと借家人となるTMOとの間で交わす25年間の建物賃貸借契約について市が連帯保証しなければならぬ。相場とかけ離れたものではない。

自民党こまつ

川崎順次委員

◆ごみダイエット50%費

ごみダイエット袋24枚に対し、不公平感がないか。使い切ると追加分は有償になるのか。

減量化、リサイクルの意識が異なることも考えられる。指定袋は地域力を生かす、余る世帯から譲り受けることもできる。それでも不足する分は、取扱店でお求めいただく。

オーバーした分は有償。無償配布分の24枚が、20枚、10枚になり、全て有償にならないのか。

配布枚数は、ごみ量を人口で割った平均による数であり、今後、ごみ減量化等の状況で見直す。

追加分が有償になるとごみを他市町に出さないか。不法投棄等マナーの悪い方は減少してきている。

ごみ減量目標を達成した時、新ごみ処理場は適正か。

季節変動や災害廃棄物に対応でき、安全安心運営が可能である。

ごみはいろんな所から出るが、例えば町内会行事、いろんな各種団体行事から出るごみはどうなるのか。

町内会等と意見交換を進め、制度設計を高めていきたい。

先に条例ありきで、後から議論では手順が逆ではないか。環境審議会の意見を先に市民や議会に示すことがやさしいまちづくりではないか。最終的にごみの有料化につながるか。

ごみの減量化とリサイクル向上を期待しており、その状況に合わせ袋数を見直していく。

議会の委員会が何も聞いてないし、市民も知らない。急にごみ袋有料化なのか。十分に説明してきたと言ったが、そんな話は一回も聞いていない。

環境審議会での専門部会設置やアンケートの報告、審議会の答申内容を委員会で報告している。

事業所ごみの搬入手数料がキロ8円から10円に上がるが。

見直しにより事業所ごみの抑制に取り組んでいきたい。

県水の負担が下がったが水道料に還元がない。他市と肩を並べるんじゃないか。小松の住みよさは、ごみは無償ですと小松の売りにしたらどうか。絶対に有料化につながるのか。